

令和7年度授業力向上推進プロジェクト 研究テーマ一覧 (外国語)



岐阜高等学校 岸本 真里	
研究テーマ	タブレットの録音と自動文字起こし機能を活用したスピーキング活動の研究
設定理由内容	<p>スピーキング活動はライティング活動と異なり、発話内容が記録として残らないため、生徒が自分の発話を客観的に振り返って自己評価を行うことが難しいという課題がある。これまでも録音機器を用いて発話を記録し、振り返りを行う取り組みは一部で実施されてきたが、音声を繰り返し聞きながら内容を書き取る作業は時間がかかり、負担となっていた。</p> <p>そこで本研究では、タブレット端末の録音機能および自動文字起こし機能を活用することで、記録作業の効率化を図るとともに、生徒が自身の発音やイントネーションに対する意識を高め、スピーチの内容や構成を客観的に評価して改善点を見つけることを可能にする。さらに、反復的な練習と振り返りを通じて、スピーキング力の向上を目指す。</p>

各務原高等学校 長澤 菜那	
研究テーマ	ライティング活動におけるテーマ設定方法と内容理解支援に関する研究
設定理由内容	<p>英語を中学時代から苦手としている生徒にとって、高校教科書の文章量や複雑な文法説明は難易度が高い。一方、ライティングを実施しようとする、文法の難易度を下げ、テーマのみを一致させることで「ライティングを行うこと自体」が目的となり、やや唐突な印象を与える。こうした状況において、表現力の積み重ねをどのように図るべきか疑問を感じていた。そこで本研究では、教科書本文を基にした意見論述をライティングのテーマに据え、ライティングに至るまでの本文理解とその他の支援について考察する。</p>

大垣北高等学校 松浦 桃香	
研究テーマ	聞きっぱなしを脱却するリスニング授業モデルの構築
設定理由内容	<p>現状の授業ではリスニングが「聞きっぱなし」になり、多くの生徒が弱点を把握できず、リスニングに苦手意識や不安を抱いている。教師も語彙力や音声認識、推測力など不足スキルを特定しづらい。</p> <p>そこで本研究では、以下の3つの方法、「振り返りシートで自己分析を促す」、「CEFR 準拠の自己評価と教師フィードバックで客観視を可能にする」、「予測・聞き取り・振り返りの3ステップ型授業モデルを導入する」を通じて、聞きっぱなしを防ぎ、学習効果を高めることを目指す。</p>

郡上北高等学校 田代 果歩	
研究テーマ	思考力・判断力・表現力を養うパフォーマンステストの実践とAI活用方法の研究
設定理由内容	<p>本校では、英語の知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力を高めようとする生徒がやや少ないが、これらの力を主体的に伸ばそうとする姿勢を育むには、主にコミュニケーションを通して、英語の楽しさや必要性、思考の重要性を体感できる授業が必要だと考える。また、パフォーマンステストでAI翻訳に依存する生徒も見られる。AIを適切に活用する力を育てる指導を行うことで、英語力の向上、そして前述の問題にも貢献できると考える。</p> <p>そこで本研究では、毎セクション、言語活動を行い、必要に応じて既習表現を提示すること、パフォーマンステストでは生成AIを活用し、英語表現を調べたり添削を受けたりすること、さらに、完成後はAI添削をもとにリライトし、初稿と修正後を比較し、訂正理由を日本語で書かせることを通して、メタ認知を促すことを目指す。</p>

郡上高等学校 市原 賢優	
研究テーマ	AI時代のライティング指導の試行 ～『表現力強化プロジェクト』とMS Copilotを用いて～
設定理由内容	<p>本年度より県教育委員会の施策として、国語と外国語（英語）を対象に、「表現力強化プロジェクト」が導入された。また、MS Copilotの利活用が推進されている。</p> <p>かねて、学習者の記述内容に対する指導者から与えられるフィードバックの有効性が示唆されてきているものの、(筆者は必ずしも同意しないが)添削作業に膨大な時間と労力がかかってしまうという事実も指摘されている。</p> <p>以上を踏まえ、本研究においては、上記システム等の利活用を進めるとともに、同システムを介在させたうえでの学習者へのフィードバックの在り方を模索したい。</p>

多治見北高等学校 加藤 知也	
研究テーマ	GELP（ジェルピー）を活用した個別最適化した4技能の育成に向けた研究
設定理由内容	<p>ベネッセコーポレーションが提供している学習支援サービス「GELP」を活用し、一斉授業の中で4技能をバランスよく育成する方法を研究する。背景には、大学入試対応に偏った授業によりSpeakingやWriting指導が不足している現状と、生徒間の学力差の拡大がある。</p> <p>対象は1年生84名で、英語コミュニケーションIと家庭学習を中心に実施する。具体的には、授業内で本文のRetelling活動や関連トピックのWriting活動を行い、その内容をGELPの英作文AI添削で添削を行う。また音読のAI採点機能も活用し、音読に対する意識の向上も目指す。家庭学習においても、模試の過去問演習で英作文AI添削を利用し、個別最適化を図る。これにより、得意な生徒の能力を伸ばしつつ、苦手な生徒を取り残さない指導を目指す。</p>

瑞浪高等学校 三輪 奈央美	
研究テーマ	多様な生徒に対応するアウトプット活動を取り入れた指導の研究
設定理由内容	<p>本研究では、論理・表現Iの授業においてアウトプット活動を工夫し、多様な生徒に対応しながら思考力・判断力・表現力の育成を目指す。生徒の英語力には大きな個人差があり、全員が無理なく取り組める活動設計が課題である。そこで、インプットとアウトプットを組み合わせた段階的な活動を導入する。さらに、学習成果を確認する活動として難易度の異なる課題を提示し、生徒が自分のレベルに応じて選択できる仕組みを整える。パフォーマンステストを通じて成果を確認し、評価とフィードバックで次の学習へつなげる。これらを通して、英語で自分の考えを表現し、協働的に学ぶ力を持つ生徒の育成を目指す。</p>

斐太高等学校 奥原 美智子	
研究テーマ	「パラグラフ・リーディング」手法による論理的思考力育成の授業実践
設定理由内容	<p>本研究では、大学進学を目指す生徒の英語長文読解力向上を目的に、「パラグラフ・リーディング」手法を用いた授業を実践する。大学入試過去問の英語長文を教材として、各パラグラフの主題文の特定と論理展開の把握を通して、文章全体の理解を深めることを中心にグループ演習を行う。</p> <p>研究過程で実施した授業後のアンケートでは満足度や理解度は高く、「文章構造を意識できた」、「読み直しの手間が減った」などの意識変化が見られた。今後は、定期考査・模試の成績変化の検証も踏まえて、問いかけや教材の工夫を重ね、手法をより効率的に展開できる指導法の深化を図りたい。</p>